

翌日4月2日、北日本新聞に掲載

柔 月

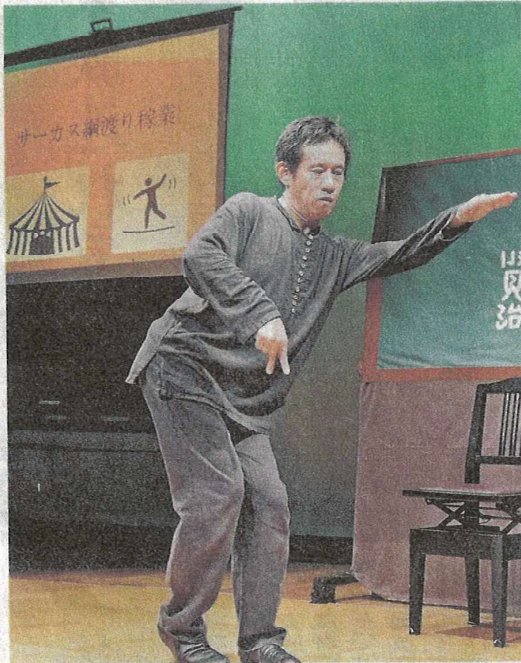
(第3種郵便物認可)

NPO法人大きな手小さな手(金川宏美代表)は1日、聴覚障害のある俳優、庄崎隆志さんによる一人芝居公演「手の詩 賢治の詩」を富山市の具民小劇場オルピ

富山

スで開いた。聴覚障害者に配慮した富山型デイサービスを同市連町で運営しており、県の手話言語条例が同日施行されたのを記念し企画した。

県手話言語条例施行記念 聴覚障害の俳優 表現豊か



来場の200人笑顔

聴覚障害者が手話で意思疎通する権利を尊重し、共生社会につなげることが条例の目的。県は手話の普及に当たるサークルや通訳者試験を受け人を支援する。
公演には聴覚障害者や家族、手話を学ぶ人ら約200人が来場。庄崎さんは手話を交えつつ、ダイナミックな身体表現や繊細な指の動き、豊かな表情で、宮沢賢治の作品の世界などを伝えた。綱渡りをするサーカス団員の演目で、加齢に伴う変化をユーモラスに演じ会場を沸かせた。

目の前に壁があるような体の動きなどを観客に指導する一幕もあり、子どもからお年寄りまでが笑顔で取り組んだ。デイサービス大きな手小さな手には、9歳から94歳までの聴覚障害者ら35人が通う。障害者を含めて手話のできるスタッフ10人がおり、来客などを光で知らせる装置を設置している。金川代表は「ろう学校でも手話が禁じられた時代を生きた高齢の聴覚障害者らに伸び伸びと過ごしてもらいたい」と思い運営している。条例施行を機に、手話が必要とする人が身近にいると知ってもらいたい」と話した。

体や指の動きで、綱渡りをするサーカス団員を表現する庄崎さん

手話交え一人芝居熱演

はつらつ県東部

北日本放送 (KNB) では、当日と翌日の二日間、ニュースで取り上げて頂きました(^ ^)